2015,3,29

2014年（H26年）度

伊野地区自治協会活動報告

－到達点と課題－

１「伊野で子どもを育てたい」と思える地域づくり

◆子育ての「世間」がある里をつくる

◆地域資源を活かした子育て支援事業の展開

（１）伊野小学校存続か統合かの意思決定

今年度は学校再編を考える検討委員会を４回開催し、再編にからむ問題について検討を重ねた。また、地域・学校視察も行い、複式学級をかかえる小規模校や学校がなくなった地域の現状について考えた。

伊野小学校児童の保護者や未就学児童の保護者の意見を集約するために、保護者会を４回開催し議論を重ねた。保護者会が行ったアンケートでは３分の２が再編に賛成、３分の１が反対という結果であった。

検討委員会の議論は大詰めを迎えている。子どもにとっての最善の利益が地域にとっても最善の利益につながるような結論を見出したいと検討を重ねている。再編を決定した場合・存続を選択した場合のそれぞれに生じる課題に出雲市がどのような対応をするのか。この点について伊野・東・桧山地区検討委員会共通の質問と要望（別紙）を 3 月 11 日に市教委に提出し、文書回答を求めているところである。このような状況の下、今年度末に結論を出すというロードマップ（当初予定）の実現が困難であると判断し、伊野地区自治協会代議員会の最終決定を２７年５月にずらすことを提案する。具体日程は下記の通り。

＜今後の予定＞

○第 9 回検討委員会（4 月 9 日）…市教委の回答について審議

○第 10 回検討委員会（4 月 23 日）…検討委員会の結論を出す

○町内会長会（4 月 27 日，旧町内会長出席）…検討委員会の結論（最終報告書）を報告。５月常会で各町内の意見を聞く。

○臨時代議員会（5 月 12 日、旧代議員出席）…学校再編について最終決定

（２）伊野ベーションの継続・発展

（１）活動の記録

〈イベント〉

①西地合海岸を舞台に貝とり・釣り・水泳（６月）

②田んぼで「泥フェスタ」（８月）　雨天のため中止

③島根大学学園祭突入（１０月）　台風で中止

④伊野探検「ぼくたちの村をつくろう」（２月）

⑤伊野ベーションと地元との交流会（２月）

〈日常活動〉

①バレーボール大会に伊野ベーションチームで参加

②伊野サマースクールに講師を務める

③伊野小学校宿伯体験学習に参加
④文化祭参加
⑤高校入試対策勉強会の講師を務める

（２）成果と課題

２年目を迎えた伊野ベーションは地区内外で認知度を高めている。子どもたちも伊野ベーションを楽しみにしており参加率は非常に高い。しかし、今後の課題も大きい。創業者世代の学生たちが来春には卒業するので、次世代（後継者）育成が急務である。もうひとつの重要課題は「ぼくたちの村をつくろう」企画で子どもたちが提案した伊野ベーションの基地を実現することである。

（３）伊野小学校の教育活動支援とコミセン・社協等による子育て支援事業の発展

①自治協会主催事業…伊野ベーション、サマー・スクール
②コミセン主催事業…スキー・スケート教室、そば打ちなど文化継承事業など　③
③社協主催事業…ふれあい運動会、しめ縄作り、３世代交流事業など
④伊野児童館…放課後預かり保育など
⑤各種団体による事業：伊野サッカークラブや伊野バレーボールクラブ、伊野アスリートクラブ等によるスポーツ活動

２　農業と食を楽しむ地域づくり

◆農業者の高齢化に伴う耕作放棄地の増加等、伊野地区農業が抱える諸課題にたいして具体的な取組を行う。
◆農業やガーデニングを楽しむことと健康と食をつなげた地域づくりを進める

（１）伊野産直市（伊野いち）立ち上げ

自治協会とコミセンの支援によって伊野産直市実行委員会（代表：山﨑敏美）が立ちあがり、「伊野いち」を２回開催した。「伊野いち」の品ぞろえやおもてなしは買い物客から高い評価を受けた。１日当たりの買い物客は２００～３００人、出荷者は約５０人、売り上げ総額は約９６万円であった。今後、「伊野いち」の案内がほしいと連絡先を残したお客は約７０人。この成功が伊野農業の発展や地域づくりにつながるような取組が求められる。

（２）農業研究

国の農業政策変更について学ぶ機会を設けたり、耕作放棄地の再利用、新しい商品作物の開発等についての研究を進めることはできなかった。地区内の農業関連団体やＪＡ、市、研究機関との連携を図る必要がある。

（３）シカ・イノシシ等有害獣対策

上伊野農業再生プロジェクト（代表：多久和喜一）の取組により、防護柵を張るなどの対策が大きく前進した。島根県東部農林振興センターの協力を得て、出雲管内で初めてとなる有害獣対策の集落点検も行われた。今後は市の補助金を活用して防護柵を張る農地を増やすとともに、防護策周辺の草刈や森林管理を共同で進めることが課題である。

４　農業課題に対する組織的対応

担い手不足や耕作放棄地拡大等、伊野の農業には深刻な課題が山積している。かかる状況下で、伊野農地保全の会（山﨑敏美代表）や上伊野農業再生プロジェクト等、

農業関連の団体が懸命の努力を続けている。伊野農地保全の会は、今年度、農水省の補助金を活用して伊野連田の用排水路改修などを行った。上伊野農業再生プロジェクトは、ホタルの里看板設置、ホタルロードの整備等、上伊野地域の農業者が連携して農業・農地を守り発展させる活動を展開した。

伊野の農業課題に取り組むためには、農業者の一層幅広い連携が必要である。伊野地区にとって農業問題は高齢者の生きがいやＩ・Ｕターン者受け入れ、環境や景観維持にかかわる重要問題であり、特別に重視して取り組む必要がある。そのため、組織的対応ができる体制を早期につくりあげる必要がある。

３　安心・安全の地域づくり

◆原子力災害に対応できる体制を整備する

◆土砂災害に対応できる体制を整備する

（１）原子力災害対応

①避難訓練

市の防災訓練計画の変更に伴い、伊野地区で毎年実施していた原子力災害対応避難訓練ができなくなったので、前年度から伊野地区独自の避難訓練や学習会を行っている。

今年度は避難先となってい大社町・荒木地区と連携を図り、荒木地区への避難訓練を実施した。避難先との連携を進める貴重な一歩であったが課題も多い。今後、被災地区や受入地区に生じる諸課題を具体的に吟味し、対応策を考えなければならない。また、荒木地区へ避難することになっている東・檜山・佐香地区との連携を進める必要がある。

②情報インフラ整備

防災・減災対策として今年度、整備されたのは平田ＣＡＴＶの音声告知放送を利用したＪアラートと災害時自販機利用。既設事業はコミセンへの線量計と非常用発電機、特設公衆電話、ワイファイ設置、地区内への標高掲示板設置。

放射線測定のモニタリングポストはＨ２７年度にコミセンに配備される予定である。

地域に音声で災害情報を伝える防災無線はＨ２８年度に工事着工の予定である。市はＨ２９年度に防災無線を家庭で受信する受信機を配備することを計画している。また、災害情報を地域住民にメールで知らせるシステムも計画している。

（２）土砂災害対応の訓練

地区災害対策本部役員が集まり、東地合の土砂災害を想定して情報伝達や避難行動等の課題を洗い出す作業を２回行った。この検討の中で、地区災対の組織を一部変更した。次年度は、地区災対が実際に動いてみる訓練を実施したい。

（３）伊野地区の情報インフラ・災害弱者支援

災害時の避難行動要支援者を把握し必要な支援の体制を整えるため、地区の世帯構成員の情報収集（緊急連絡先や要支援の有無等）を行った。

伊野地区の災害情報を地区住民に伝えるために、メール配信システム等ＳＮＳ活用の防災対策を市に要望しているが具体的な動きに至っていない。平田ＣＡＴＶに協力を求めたところ、前向きに検討するという回答を得た。今後、平田ＣＡＴＶや

市との連携を図り、ＳＮＳ活用の防災対策を進めていきたい。

（４）消防伊野分団３部体制の円滑な推進と地合の格納庫建設

今年度から伊野分団は４部体制から３部体制に移行した。市の消防操法大会（平田地区）では２４年度優勝、２５年度準優勝、２６年度準優勝と極めて優秀な成績を残した。西地合の格納庫建設は年度内に完工する予定である。

（５）　ファースト・レスポンダー

１１９番通報から救急車が到達するまでに２０分以上かかる伊野地区で救命率を高めるために、ファースト・レスポンダーというシステムを立ちあげることを町内会長会に提案し各町内で話し合ってもらったが、十分な理解を得られなかった。

次年度は、可能なところでシステムを立ちあげるとともに、地域住民の理解を得るためにＡＥＤ講習会を町内単位で開催したい。（今年度、引木町内と松枝町内で実施）

４　高齢者に対する福祉・医療の充実

◆高齢者世帯が直面する諸課題（買い物弱者、医療アクセス、葬儀等）について検討を行う

◆災害等緊急時の高齢者支援の体制を整備する

◆高齢者の出番をつくる活動、高齢者の健康増進を図る取組を進める

（１）「第３次福祉活動計画」の策定

第３次福祉計画策定のために行った住民アンケートは伊野地区が直面する課題を浮き彫りにしている。地区住民の最大関心事トップ３、①高齢者・障がい者の見守り、②災害弱者支援、③介護であった。暮らしの中の困りごとトップ４は、①下水道、②病院が遠い、③金融機関が遠い、④買い物が不便であった。今後、一層深刻化するであろうこれらの問題について具体的な検討がせまられている。

（２）　町内単位の高齢者の活動（社協のサロン事業など）を発展させる。

非常に活発なサロン活動が展開されている町内がある一方、活動のない町内もある。両者の教訓や課題を検討しつつ、高齢者の交流や課題解決を図っていきたい。

（３）　社協・民児協・自治協会等の連携を図り、福祉・医療に関わる課題解決に努める。

認知症患者対応について鈴木医師（出雲市民病院）を講師に迎え「回想法」について学ぶ研修会をコミセンが主催したところ、非常に好評であった。地域住民にとって関心の深い分野であるので引き続き、研修の機会を設けたい。伊野本陣との連携も模索したい。

５　住みよい伊野にするためのインフラ整備

◆松江、平田・出雲へのアクセス等交通インフラの整備を進める

◆災害に備えるインフラ整備を進める

◆伊野川井堰改修等、農業インフラの整備を進める

１　伊野川井堰改修

伊野川井堰改修について大きな前進があった。改修に向けた調査が行われ、地元の意向を踏まえ、９基ある井堰のうち４基を改修、残りを撤去する方向で採択申請に向けた準備が進み始めた。２７年度に採択申請を行い、認められれば２８年度から工事

着工の予定である。今後、地権者の理解と合意を丁寧に求めていくことが求められる。

２　斐川・一畑・大社線の拡幅・改良

災害時、地合町からの避難道路になる簸川・一畑・大社線等の拡幅・改良については、園山県議と伊野・佐香・北浜地区自治協会長が市と県に対して早期実現を求める要請行動を行った。現在工事中の地合第１工区はＨ２８年度完成予定であるが、引き続き、他地区との連携を図りながら地合工区の早期完成をめざして県・市への働きかけを強めたい。

３　第３次生活環境道路改良事業（「３カ年計画」）の推進

土木委員会の努力によって「３カ年計画」（Ｈ２６～２８年度）に採択された伊野地区道路改良は、今年度、西灘線の拡幅改良など４箇所の事業が行われた。

４　「道路整備事業１０カ年計画」の推進

市の「道路整備事業１０カ年計画」（Ｈ２０～２９年度）に位置付けられている伊野地区の「継続事業」「新規事業」の早期実現について市と交渉を行ったが進展はなかった。市の「第１次道路整備１０カ年計画」が２９年度で終了する。それに伴い、「第２次１０カ年計画」の策定作業が２７年度から始まる。「第１次計画」に継続事業・新規事業として位置づけられている伊野地区未着手の５事業の早期実現を要請するとともに、計画年度内に実現ができない事業については「第２次計画」に盛り込まれるように市への働きかけを強めたい。併せて、伊野地区の道路整備事業を推進する組織のありようについて検討し、早期に推進体制を整えたい。

６「伊野暮らし」を楽しむ地域づくり

◆まちづくりを語り合う場と機会をつくる。
◆スポーツを楽しむ生活と交流人口拡大
◆国際交流・多文化共生の地域社会をつくる
◆女性や若者・壮年世代の動きをつくる

（１）「ひだまりカフェ」開催

伊野の食文化継承や世代間交流を目的に、１１月３０日、自治協会理事が中心となって「ひだまりカフェ」を開催した。今後の地域づくりを展望するとき、貴重な一歩であり次年度の発展を模索したい。

（２）まちづくりを考える講演会等を開催し、伊野の未来を考える

具体的な取組はできなかったが、学校再編論議や伊野いち等の取組を通して、伊野の未来について様々な議論が展開されたことは大きな成果であった。次年度は、地域づくりに関わる声・意見を集約し「地域創生」の具体的なプランを考える組織を立ちあげたい。

（３）スポーツを通した地域づくりと交流人口拡大。

伊野体協を中心に体育祭をはじめ様々なイベントが開催された。伊野小学校児童がスポーツを楽しむ機会を支援する活動も、地域ボランティアの献身的な努力によって維持されている。スポーツ好き住民が多い伊野地区で、スポーツは地域づくりの重要なキーワードと考えて、体協を中心に次年度の取組を考えたい。

（４）国際交流・他地域交流（交流人口拡大）

伊野サッカークラブと愛媛県久万高原町のサッカークラブとの交流が続いており、

今年度は久万高原町の児童・保護者４０名余が伊野を訪れた。国際交流では、「伊野コミコミサロン」（患者・家族のサロン）がロシア人を招いて講演会を実施し（前年度３月）、続けてコミセン主催で「ロシア料理講習会」が開催された。

各国のボランティアが日本で活動する「国際ワークキャンプ」の一行が伊野小学校で児童らと交流した。Ｈ２８年度に「国際ワークキャンプ」を伊野に迎えるため、次年度に研究と準備を進めたい。

（５）伊野暮らしを楽しむ活動を行うグループの発掘・支援

山﨑美吉氏主催のビール会、消防伊野分団や伊野体協による婚活企画、各町内のお楽しみ企画などが精力的に展開されている。有志や各町内が伊野暮らしを楽しみ交流を深める活動に積極的に取り組むことを期待したい。

（６）女性や若者世代の活動

具体的な活動を引き出すことはできなかった。「地域創生」の取組を具体化するために大きな推進力となるべき女性や青年の結集を促すことは伊野地区にとって特別に重視すべき課題である。

（７）伊野地区住民の困り感や要求を年代別・性別に把握するための調査

「第３次福祉活動計画」策定のために行った住民アンケート結果は伊野地区の持続・発展のための重要課題を浮き彫りにした。この結果をもとに、具体的な施策を考えるとともに必要に応じて新たな調査を実施したい。

7　伊野の魅力発見と情報発信

◆ホームページ等を活用した情報発信の充実

（１）伊野の情報を発信するホームページ開設

伊野の情報発信・災害対策の両面から喫緊の課題と考えている。平田ＣＡＴＶ等の協力を得つつ、情報発信の方法について具体策を実現させたい。

（２）新聞・テレビ・CATVの活用

伊野いちや伊野ベーション、ネールアート等が新聞、テレビで報道され、伊野の認知度が上がってきた。

（３）ソーシャルラーニング開催

今年度は学生参加者が少なく課題を残した。来年度は、「伊野いち」と「ほたるの里」をテーマに学習を展開したいという提案が島根大学からあったので、受け入れる方向で準備を進める。

（４）空き家の把握と活用について検討

今年度、調査はできなかったが来年度、重点施策として取り組みたい。

（５）ホタルの里

上伊野農業再生プロジェクトによる「ホタルの里」看板設置とホタル・ロードの草刈を受けて、コミセン主催の「ホタル見学ツアー」が実現した。伊野の観光資源開発・交流人口拡大のために積極的な活用を考えたい。